

第一回 世界展開力派遣留学 経過報告書
ブラジル連邦共和国 サンパウロ大学
国際農業開発学科 3年 伊藤将大

・はじめに 渡航について

日本を出発して早1か月以上が経過した。日本を出発する際、台風のため千葉行きの電車の一切が停止し、かなり余裕を持って出発したのにも関わらず空港への到着はギリギリで、尚且つ飛行機が止まったため成田空港で一泊、アブダビ国際空港で一泊と、合計で約3日間の長旅になるなど序盤から厳しい船出になった。ブラジルは2回目だった上にルートも航空会社も同じだったため不安などはなかったが、空港に行く途中の道や東京駅でバスを待っている際にかなり雨に打たれた上に空港の冷房が効きすぎて風邪を引いてしまったのがきつかった。サンパウログアルーリオス空港には先輩である松崎さんが迎えに来てくださったこともあり、スムーズに滞在先まで到着した。しかし、その3日後ほどに原因不明の病にかかり、1週間ほど寝込んでいた。病気や病院については後述する。

このように始めの2週間ほどはなかなか落ち着かない毎日だったが、徐々に調子を戻していき、今ではサッカーや陸上などもこなせるようになってきている。しかし、海外であることもあり、これからも体調面も考慮しながら生活をしていきたい。私が到着した当初は右も左もわからなかったが、生活リズムも整い落ち着いてきた今は、これからの留学生生活をよりよく過ごすための計画をたて、充実した毎日を送りたいと思うばかりである。

・学校について

私が通っている大学はサンパウロ大学ピラシカバ校だが、ここはエザウキと呼ばれている。ピラシカバ市の街の中心地から少し離れたところにある1000haもある広大な土地を有しており、南米最高峰のワールドクラスの大学である。私がこんな素晴らしい大学に留学できるというのは大変な名誉だと感じている。私が住んでいる寮のような場所から自転車で10分ほどの場所にあり、美しいキャンパスである。農学部のキャンパスとなっており、キャンパス内には広大な農地が広がっている。また、学内にはカピバラやハチドリなど、日本で見られないような珍しい動物を見かけることもある。

建物に関しては日本の大学のように高層階にはなっておらず、少し古びた1階建ての建物や伝統的なヨーロッパ風の建物が目立つ。学生は通常、バスで登校したり、寮から歩いたり自転車で使ってきているが、多くの人が車を使っている。中には、授業と授業の間に車を使う学生がいるなど、車社会のブラジルの文化を色濃く反映しているように思える。もちろん私は自転車を利用しているが、正直キャンパスが広すぎて不便さを感じるものがしばしばある。

・生活について

前述したように、私は寮のような場所に住んでいるのだが、他に7人の学生が暮らしていて、ヘプブリカと呼ばれる言わばシェアハウスのようなものである。個人の部屋というのはなく、いずれの部屋も二人か三人で寝ている。朝ごはんはなく、昼は全員が学校から一時帰宅しみんなでテーブルを囲む。食事や選択についてはお手伝いさんが全てをこなしてくれていて、夜ご飯は昼の残り物を食べたり、作ったりしている。そのため全員仲が良く、わきあいあいとして楽しいのだが、プライベートがないためこれから来るには十分考慮して決めてもらいたい。また、歩いて5分ほどのところに小さなスーパーがあり日用品などはだいたいそろえることができる。しかし、当然ながら日本と違い質・量ともに満足なものがあるとは限らないので、薬などは日本から持ってくることをお勧めしたい。

また、わたしは病気にかかってしまったのだが、少し大きめの病院が近くにあり、まあまあ施術を施してくれる。どうしてまあまあかと言うと、ブラジルには公共の病院と個人の病院とで分かれており、個人の病院（個人といっても規模はさまざまで、大きい病院もたくさんある）のほうが治療費が高く、レベルの高い医師や設備があるからである。私はおそらく公共の病院に行き、回復することができたがこれから来る学生たちには病院選

第一回 世界展開力派遣留学 経過報告書
ブラジル連邦共和国 サンパウロ大学
国際農業開発学科 3年 伊藤将大

びには気を付けてもらいたい。なぜなら、ブラジル人は公共の病院を無料で使うことができるが外国人は割高であり、失礼かもしれないがその上に治療は雑だからだ。仮に、しっかりと保険に加入しており、また病気が重いものと感じたなら、レベルの高い病院に行くことをお勧めしたい。また、軽い怪我や風邪などの時は学内に無料の病院があり薬ももらえるので、事前に調べておく必要がある。

気候についても日本とは大きく異なり、昼は強い日差しで暖かく、朝と夜はとても寒い。私がブラジルに着いたのは冬の終わりだったが、少し厚手の洋服は数枚あった方がいいと感じた。ブラジルは地方によって気候が大きく異なるが、サンパウロだとだいたい9月～10月の半ばが春、10月半ば～4月が夏、5月～6月上旬が秋で、6月半ばから8月は冬である。私の日程では8月～来年の7月頃になるが、もし冬の時期に被るとしたら、いくつかの防寒具が必要になるだろう。

治安の面については、通学路によく泥棒が出るなど日本に比べると危険だと感じる。私はまだ被害には遭っていないが、友人のブラジル人など何人も被害に遭っているため注意したい。また、夜は一人で出歩かない、女の人の場合には誰かに付き添ってもらうなど気をつけなければならない。ピラシカバ市にはいくつかの大学があり比較的治安もよく、田舎でも都会でもない暮らしやすい街である。車で10分ほどの場所には映画館が併設されたショッピングモールがあるなど、娯楽にもそこまで困ることなく、日本とさほど変わらない生活を送ることができている。

・授業、勉強について

私は今学期は授業を履修しておらず、聴講のみとなっている。正直、ほとんどなにを言っているのか理解できていない。しかし、友人と一緒に受けたり辞書を使いながら受けたりするなどして、着実に語彙数を増やしていると感じている。ポルトガル語で授業を受けることは想像していた以上に難しいが、来季から履修したいということもあり、しっかり頑張りたいと感じている。

・最後に

留学生活が始まり1か月以上が経過したが、想像以上に早いと感じている。今は駆け出しのためいろんな事にしっかり集中して取り組むことができているが、この先気の緩むことがないように心がけたい。